東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

国立大学におけるオウンドメディアを活用した活動の推進：公式ウェブマガジンedumottoによるオープンキャンパスでの取り組みの実践報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 東京学芸大学教育実践研究推進本部 公開日: 2024-03-14 キーワード (Ja): オウンドメディア, 公式ウェブマガジン, 大学の広報, オープンキャンパス, ワークショップ, ファシリテーション, ETYP: 教育関連論文 キーワード (En): Owned media, Official web magazine, University public relations, Open campus, Workshop facilitation 作成者: 荻上, 健太郎, 加藤, 桂子, 河野, 芽唯, 入戸野, 舞耶, 石川, 智治, 大内, 涼葉, 小沢, 真奈, 伊波, 瑠音 メールアドレス: 所属: 東京学芸大学, 東京学芸大学, 東京学芸大学, 東京学芸大学, 東京学芸大学, 東京学芸大学, 東京学芸大学, 東京学芸大学
URL	http://hdl.handle.net/2309/0002000294

東京学芸大学紀要　機構　**75**: 145 – 152，2024.

国立大学におけるオウンドメディアを活用した活動の推進

―― 公式ウェブマガジンedumottoによるオープンキャンパスでの取り組みの実践報告 ――

荻上　健太郎*1・加藤　桂子*1・河野　芽唯*2・入戸野　舞耶*3・
石川　智治*4・大内　涼葉*5・小沢　真奈*6・伊波　瑠音*7

教育インキュベーションセンター

（2023年9月19日受理）

1．はじめに

東京学芸大学公式ウェブマガジン「教育を面白くするメディア『edumotto（エデュモット）』」（以下，「edumotto」とする。）[1] は，本学のブランディングを目的に，学生と教職員からなる編集チームを組成し，合同で運営する東京学芸大学公式のウェブメディアである。

edumottoは，大学の情報発信や広報を担うオウンドメディアであるとともに，学生が編集チームの主体を担うという運営の特性を踏まえた教育活動としての側面，さらには所管する教育インキュベーションセンターの役割使命としての産学連携等のオープンイノベーションの推進という役割も担っている。このオウンドメディアならびに教育活動の一環として，2022年度からは本学オープンキャンパスや小金井祭（11月に開催する学園祭）等において，edumottoとしての企画出展や来場者インタビュー，ウェブやSNS等による広報活動に取り組んでいる。

大学におけるウェブマガジン等のオウンドメディアの活用やオープンキャンパスの運営に関する研究は，国立大学におけるオウンドメディアの活用状況に関する調査（荻上ほか，2022），オープンキャンパスにおける教員の課題と役割に関する報告（橋本ほか，2011）やオープンキャンパスにおける学生広報スタッフのあり方に関する考察（小田ほか，2015）などがあるが，ウェブマガジン等によりメディアとしての発信まで取り組む活動や運営に学生が主体的に関わることによる教育効果，教員養成との関連性に関する研究はほとんど見られない。大学の公式ウェブマガジンであるedumottoが，産学連携のもと，メディアとしての活動と教員養成大学としての教育活動の双方に取り組むことは，大学と社会とのコミュニケーションのあり方や教員養成大学における教育活動のあり方に対する新たな可能性や方法の提示にもつながる重要なものであると考える。

そこで，本稿では，2023年7月に開催された本学オープンキャンパス2023におけるワークショップの実践について報告を行う。

2．東京学芸大学公式ウェブマガジンedumottoについて

本学では，2021年8月25日に，大学公式ウェブマガジンとしてedumottoを創刊した。edumottoは本学のブランディングを主目的としたオウンドメディアである。「教育をもっと面白くする」をコンセプトとし，教育の未来，社会とつながる教育，教育を深堀り，学芸の人，以上の4つの柱を軸とし，edumotto+，教育の未来，みちしるべ，Labエージェント，カッコつけない本棚，What do you think?，せんせいのーと，未来の学校，Explaygroundの9つのコーナー（2023年9

＊1　東京学芸大学 教育インキュベーションセンター（184-8501　東京都小金井市貫井北町4-1-1）
＊2　東京学芸大学 教育学部 初等教育教員養成課程 美術選修
＊3　東京学芸大学 教育学部 教育支援課程 教育支援専攻生涯学習コース
＊4　東京学芸大学 教育学部 中等教育教員養成課程 社会専攻
＊5　東京学芸大学 教育学部 教育支援課程 教育支援専攻生涯学習・文化遺産教育コース
＊6　東京学芸大学 教育学部 学校教育教員養成課程 初等教育専攻国語コース
＊7　東京学芸大学 教育学部 学校教育教員養成課程 初等教育専攻美術コース

月時点）を設けて，取材活動やイベントの企画運営等を通じた記事による発信，SNSを活用した情報コミュニケーション活動等を行っている。

図１　edumottoのトップページ
（東京学芸大学，2023）

edumottoの運営は，本学の学生と教職員からなる編集チームを組成した上で，コンテンツの企画から取材，編集，サイト管理そしてワークショップ等のイベント活動まで，プロジェクトの推進やサイト運営の中心を学生メンバーが担っており，教育活動およびキャリア形成の場にもなっている。

2023年９月時点では，29名の学部学生および大学院生が編集チームに参加している。その内訳を学年，類・コース別に見ると，下記の通りとなっており，教育の総合大学である本学らしい多様なメンバー構成となっている。

①学年別：1年７名，２年５名，３年９名，４年６名，大学院２名。

②類・コース別：A類13名（国語，社会，国際教育，英語，数学，美術，家庭），B類５名（社会，理科，音楽，家庭），C類１名（言語障害），D類１名（養護教育），E類７名（生涯学習，表現教育，多文化共生教育，カウンセリング），大学院２名（教育支援協働実践開発専攻）。

３．これまでの取り組み（オープンキャンパス2022）

オープンキャンパスにおけるedumottoとしての活動は，2022年度に連携パートナーである日本放送協会（以下，「NHK」とする。）[2] と実施したワークショップが最初となる。

本学のオープンキャンパス2022（2022年７月23日開催）において，NHKとedumottoによる共同企画としてワークショップを実施した。NHKとedumottoの連携の軸である「メディアとしての伝え方と教員としての教え方」ならびに「当事者になれないもしくはなりにくいテーマや問題にどのように向き合うのか」を題材として協議を重ね，下記の３部構成でのワークショップを実施した。

＜ワークショップの構成＞

第１部：edumotto × NHKラジオ～ edumotto学生メンバーのこれまでと今～

第２部：大学生に質問してみよう！

第３部：「教える」視点で考えよう！～平和学習への向き合い方～

図２　ワークショップのチラシ（オープンキャンパス2022）
（東京学芸大学，2022）

図３　ワークショップ第２部（オープンキャンパス2022）
（東京学芸大学，2022）

４．オープンキャンパス2023でのワークショップ

４．１　ワークショップの企画概要

2023年７月22日に開催された本学のオープンキャンパス2023において，edumottoとしては２回目となるオープンキャンパスでのワークショップを実施した。本ワークショップの企画においては，改めて，オープンキャンパスという場が持つ「主に高校生等の入学希望者向けに大学を紹介する，知ってもらう機会」という特性を踏まえ，主要な参加対象者を高校生

と設定した。そして，edumottoが東京学芸大学の現役学生メンバーで構成されることや教育に関するメディアであるという特性やリソースをいかし，下記のタイトル・コンセプトおよび２部構成によるワークショップ企画立案を行った。

＜ワークショップのタイトルとコンセプト＞
edumottoワークショップ
～教育系トークカフェ with 学芸大生～
edumotto教育系トークカフェオープン！
東京学芸大学公式ウェブマガジン「edumotto」の学生メンバーと，教育の面白さや学芸大学の魅力について話し合えるワークショップです！
「教育の面白さって？」「学芸大学ってどんなところ？」そんな疑問がある人！教育に興味のある人！学芸大生と話したい人！ぜひ，様々な学科の学芸大生とお話ししませんか？

＜ワークショップの構成＞
〇午前の部：「高校生の声，聞かせてください！」
現役学芸大生であるedumottoメンバーからの逆賀問座談会。
皆さんのお話，深掘りさせてください！！

〇午後の部：「あなたが先生だったら，どうする？」
edumottoの記事からテーマをピックアップ。ジェンターや校則を切リロに，教育についてディスカッションを行います！

図４　ワークショップのチラシ（オープンキャンパス2023）（東京学芸大学，2023）

ワークショップのタイトルに冠した「教育系トークカフェ」は，教育に関する幅広い内容をテーマに，来場者とカジュアルに対話する空間を意図して名付けたものである。様々な学科・コースに所属する学生メンバーで構成されたedumottoだからこそ出来ることはなにか？という問いを出発点とし，オープンキャンパス来場者に提供できる価値を考えるとともに，edumottoの想定読者層でもある高校生等の“未来の学芸大生”の声を直接聞くことのできる貴重なチャンスでもあるととらえ，来場者と学生メンバーが近い距離で相互に話をする場をつくりたいと考え，「教育系トークカフェ」というタイトルとし，午前の部は個別の座談会，午後の分はグループによるディスカッションという構成とした。

４．２　ワークショップの実施状況

４．２．１　午前の部（「高校生の声，聞かせてください！」）について

午前の部は，「高校生の声，聞かせてください！」と題し，来場者とedumotto学生メンバーがペアもしくは小グループになり対話を行った。

「逆質問座談会」というコンセプトのもと，「学芸大学に関心・志望を持ったきっかけは？」「その学科・コースに興味があるのはなぜ？」「大学生活への不安はある？」など，edumotto学生メンバー側から問いを投げかけることで，来場者が知りたいことや聞きたいことへの導入とするとともに，会話の幅を広げる補助にもなるように工夫を行った。受験勉強や学業に関する相談だけでなく，保護者の方からは上京後の生活に関する相談も多く寄せられた。一人暮らしや学生寮で生活しているメンバーが，それぞれの暮らし方や費用について答えることで，現役の学生ならではの生の声をお伝えできる機会となった。

図５　ワークショップ午前の部の様子（東京学芸大学，2023）

４．２．２　午後の部（「あなたが先生だったら，どうする？」）について

午後の部は，「あなたが先生だったら，どうする？」

と題し，edumottoに公開されている記事をテーマとした，来場者とedumotto学生メンバーによるグループディスカッションを実施した。

第１部のテーマは「ジェンダー」。edumottoの「“好きな色”を選ぶことができる社会へ」[3]というランドセルの色に関する記事を題材とし，教室内での一場面（黒色のランドセルを選んだ女の子を，まわりの子がからかっている状況）を想定し，「あなたが先生だったら，どうする？」についてグループメンバーでディスカッションを行った。

参加した高校生だけでなく，edumotto学生メンバーにとってもなったことのない「先生」という立場を想像する難しさがあり，対話が進まず苦戦する状況も見られた。そこで，「からかった子はどうしてからかったと思うか？」「女の子はどんな気持ちでいると思うか？」「こういう場面で先生に言ってほしいこと，言ってほしくないことは？」「からかった子，女の子にはそれぞれどう話しかける？」「他のクラスの子にはどうする？」など，考える要素を分解し，考えやすいものから対話を始めることで，ディスカッションが進みやすくなる工夫を行った。

第２部のテーマは「校則」。edumottoの「第１回「校則」学芸大生に緊急アンケート！校則って守るもの？縛るもの？」[4]という校則に関するアンケートをもとにした記事を題材とし，GIGAスクール構想のもとでの一人１台端末の普及という環境の変化とスマートフォンの使用に焦点を当てた問いを立て，グループメンバーでのディスカッションを行った。

ディスカッションのはじめに，参加した高校生が通う学校の校則を紹介しあった。スマートフォンの利用については，「特に縛りはない（授業中の利用も可）」「登下校中も含め電源はオフにする」等，学校によって様々な校則・ルールがあり，自分の学校との違いに驚きの声を上げる生徒の姿も見受けられた。校則の共有を踏まえ，どのようなルールが望ましいかをグループで話し合ったところ，「授業中にスマホを回収するのは必要」という意見や，「使用自体は可とし，使用時の具体的なルールを定めたほうがよい」等の意見が交わされた。また，「小学校と中学校，高校では変わってくるのではないか」「保護者の目線から求められるものがあるのではないか」等の意見もあり，スマートフォンと校則という身近なテーマに対して活発な対話が行われた。

図６　ワークショップ午後の部の様子
（東京学芸大学，2023）

４．２．３　アンケートコーナーについて

ワークショップを実施した教室前の廊下や教室内にアンケートコーナーを設置。３つの質問「①印象に残っている先生，面白い先生は？」「②授業に求めるもの，参加したいと思う授業」「③うちの学校ココが変わっている！ここがローカル！」を用意し，付箋に書いてもらう形で回収。30を超えるコメントや意見を集めることができた。

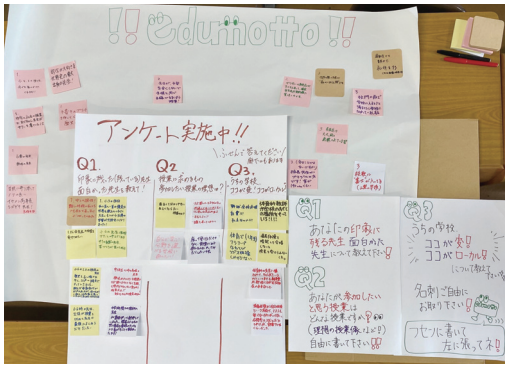

図７　アンケートコーナーで集まったコメント
（東京学芸大学，2023）

４．２．４　参加者数

本ワークショップの参加者数は，午前の部と午後の部の合計で80名であった。その内訳は下記のとおり。

午前の部：20名（生徒14名，大人６名）
午後の部：60名（生徒42名，大人18名）
合計：80名（生徒56名，大人24名）

４．２．５　参加者アンケート

本ワークショップの参加者にアンケートを実施した。アンケート結果より，ワークショップの感想やコメントの一部を取り上げる。

・初対面の人とそれぞれの学校のルールについて話す機会はなかなか無いので，新鮮で面白かったです。
・教育に関心のある全国の高校生と話せて，自分に

とって刺激になった。
・考える内容やさまざまな違いを持つ人とディスカッションするのが面白かった。
・意見を大衆面前で発表する喜びに気付かされました。自分の学校と他の学校にこんなにも違いがあるのかと驚いた。
・時間をオーバーしてしまって，他に聞きたいことが聞けずに終わってしまった。
・学生さんが親切丁寧にお話くださいました。資料やHPでは知り得ない情報を教えていただき，保護者として大変嬉しく思いました。ありがとうございました。

4．3　ワークショップの振り返り

オープンキャンパスでのワークショップ終了後，edumotto学生メンバーと振り返り会を実施した。この振り返り会では，
・同伴者（保護者）を入れることに当初は懸念を感じていたが，結果的に選択制にしたのは正解だった。同伴者である社会人（おとな）も教育の当事者であることには変わりはなく，また，自分の子どもが進んでいく環境（大学生活，教育現場）を知りたいと思う気持ちの強さを改めて感じた。
・ディスカッションのテーマが抽象的ではないかと思っていたが，高校生の発想がとても柔軟で，こちらが想定していないような内容や言葉がどんどん出てきて感動した。
・午前の部は会場のレイアウトの制約もあり，座談会というよりは個別相談会のような形になってしまった。これは想定外ではあったが，その分，学生生活や受験生時代，学科の話などを高校生とゆっくり話せ，聞きたいことを遠慮なく聞ける場となった。
・午後の分のディスカッションはまるで授業みたいで，自分もはやく実践してみたい。チームごとにまとめた意見が全然違ったことも面白かった。
・参加した高校生が受動的にならず，積極的に発言していて，相互コミュニケーションのワークショップになっていて感動した。高校生と大学生で意見を出し合う中で，教育についてさまざまな発見があり，考えを深めることができた。
・高校生の色々な話を聞けて，自分の中での「高校生像」がよりはっきりしてきた。わずか数年の年の差だがジェネレーションギャップが色々あり，知らないことを知ることができて楽しかった。
・時間が短かった。もう少し時間があるとさらに濃い内容を落ち着いて話せたと思う。
・高校生がたくさんの意見を話してくれたが，高校生が話した後に自分が話すという流れができてしまい，ファシリテーションの難しさを感じた。
・ワークショップに参加するしないに関わらず，教室に入らなくても答えることができる「廊下のアンケートコーナー」は良いアイデアだった。
・「教育系メディアに期待しているもの，取り上げてほしいものは？」という質問をしたところ，教育のブラックな点だけでなく，良い点も取り上げて欲しいというコメントをもらったことが印象的だった。

以上のようなコメント・感想が各メンバーより出された。

今回のワークショップでは，「教育系トークカフェwith学芸大生」と題し，オープンキャンパスの開催目的である「主に高校生等の入学希望者向けに大学を紹介する，知ってもらう機会」を軸に，edumottoならではの価値の提供とedumottoの想定読者層でもある“未来の学芸大生”の声を直接聞くことのできる貴重なチャンスの両立を目指した。会場のレイアウトの制約により予定外の進行となる場面もあったが，総じて企画の趣旨と内容を実現することができた。特に，edumotto学生メンバーが自分たちで企画したワークショップを開催し，グループディスカッションのファシリテーション等の経験をできたことは，edumottoが持つ教育活動としての側面において有意義な機会となった。今後も，edumottoの活動を推進するとともに，オープンキャンパス等の機会をいかしたワークショップ企画等の取り組みを行うとともに，これらの活動を通じた学びと経験による効果や変容についても注視していきたい。

5．おわりに

本稿では，本学の公式ウェブマガジンであるedumottoによるオープンキャンパスにおける活動の具体的な取り組みについて報告を行った。2022年度のオープンキャンパスにおけるワークショップの開催については，連携パートナーであるNHKのメンバーの皆様に多大なるご協力をいただいたことに感謝の意を表したい。

そして，学業とedumottoの活動を両立し，オープンキャンパスにおけるワークショップの企画から当日の運営，事後の対応までを担ってくれた，edumottoのオープンキャンパス班（河野芽唯氏，入戸野舞耶氏，石川智治氏，大内涼葉氏，小沢真奈氏，伊波瑠音氏，近藤羽音氏）のedumotto学生メンバーにこの場を借

りて感謝と慰労の意を表したい。

今後も，edumottoの取り組みをさらに推進するとともに，取り組みから得られる効果や変容についても調査を続けていくこととしたい。

註

1）東京学芸大学公式ウェブマガジン「教育を面白くするメディア『edumotto』」（https://edumotto.u-gakugei.ac.jp/）

2）日本放送協会（NHK）（https://www.nhk.or.jp/）

3）“好きな色”を選ぶことができる社会へ（https://edumotto.u-gakugei.ac.jp/2022/09/05/2056/）

4）第1回「校則」学芸大生に緊急アンケート！校則って守るもの？縛るもの？（https://edumotto.u-gakugei.ac.jp/2021/12/10/767/）

文献

小田寛人ほか，オープンキャンパスにおける学生広報スタッフのあり方と今後の展望，常葉大学短期大学部紀要，2015年46号，53-67，2015

橋本佳美ほか，インフォーマルな大学教育としてのオープンキャンパス―学生の社会性育成のために，佐久大学看護研究雑誌，2011年3巻1号，53-60，2011

国立大学におけるオウンドメディアを活用した活動の推進

―― 公式ウェブマガジンedumottoによるオープンキャンパスでの取り組みの実践報告 ――

Promotion of Activities Using Owned Media at National Universities:

Practical Report on the Initiatives at the Open Campus by the Official Web Magazine "edumotto"

荻上　健太郎*・加藤　桂子*・河野　芽唯*・入戸野　舞耶*・
石川　智治*・大内　涼葉*・小沢　真奈*・伊波　瑠音*

OGIUE Kentaro, KATO Keiko, KONO Mei, IRITONO Maya,
ISHIKAWA Tomoharu, OUCHI Suzuha, OZAWA Mana and IHA Ruru

教育インキュベーションセンター

Abstract

The official web magazine of Tokyo Gakugei University, "edumotto", is an owned media that contributes to the public relations of the university, and has an aspect as an educational activity based on the management characteristic that students are the main members of the editorial team. Since FY2022, edumotto has planned and held workshops at the university's open campus, and this paper mainly reports on the workshops held at the university's Open Campus 2023, in July 2023. The workshop, titled "Educational Talk Cafe with Gakugei- Students," contributed to the purpose of holding the open campus by bringing the real voices of Gakugei- Students to the visitors as a unique value of edumotto. In addition, the talk cafe was intended to serve as an educational activity by creating a chance to directly hear the voices of "future Gakugei-Students" such as high school students, who are the expected audience of edumotto. This kind of owned media operation at a university is unique, and we would like to continue to research the effects and changes that can be obtained from edumotto's initiatives and activities.

Keywords: Owned media, Official web magazine, University public relations, Open campus, Workshop facilitation

Center for Open Innovation in Education, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

要　旨

本学の公式ウェブマガジンであるedumottoは，大学の情報発信や広報を担うオウンドメディアであるとともに，学生が編集チームの主体を担うという運営の特性を踏まえた教育活動としての側面を有する。2022年度からは本学オープンキャンパスにおいてワークショップを企画開催しており，本稿では，2023年７月に開

* Tokyo Gakugei University（4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan）

催された本学のオープンキャンパス2023におけるワークショップの実践について主に報告する。「教育系トークカフェ with学芸大生」と題し，edumottoならではの価値として学芸大生の生の声を来場者に届けることで，オープンキャンパスの開催目的に貢献するとともに，edumottoの想定読者層でもある高校生等の“未来の学芸大生”の声を直接聞くことができる場づくりを通じた教育活動としての両立を目指した。大学におけるこのようなオウンドメディア運営は珍しく，edumottoの取り組みや活動から得られる効果や変容については引き続き調査を行っていくこととしたい。

キーワード: オウンドメディア，公式ウェブマガジン，大学の広報，オープンキャンパス，ワークショップファシリテーション